

房総里山芸術祭 いちほら×アートミックス2020+をめぐる旅—20 月崎エリア探訪(1)

## ● 月崎エリア探訪(1) いちほらクオードの森 ●



作 者：栗田 宏武  
作 品 名：田舎暮らし 陽だまりの庭にて  
作品紹介：

里山の自然との共存について考え、人と野生動物、雑木、雑草との闘い、そして老夫婦の陽だまりでの安らぎのひとつの風景をチェーンソー・カービングで制作。朽ちた杉と立ち枯れたヒノキを作品に活用することで、新たなる生命を吹き込む。



作 者：小沢 敦志  
作 品 名：地熱の扉  
作品紹介：

市原市内で多種多様な鉄製品の廃材を集め、それらを素材として制作された大型のオブジェ作品が豊かな森林を背景に出現。何度でも繰り返し溶解でき、再生できる鉄という素材の長所を活かし、第1回芸術祭以来、長期プロジェクトとして取り組まれている。